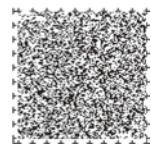


パラハートちょうふ つなげよう、ひろげよう、 共に生きるまち 2025

このパンフレットには「音声コード」を添付しています。
専用装置やスマートフォン用アプリを使い読み取ることで、
ページに書かれている文章を音声で聞くことができます。



パラハートちようふ、

つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち

調布市は、東京2020大会開催を契機として、共生社会の重要性をこれまで以上に発信するため、「パラハートちようふ」のキャッチフレーズを掲げ、さまざまな分野で取組を展開しています。このキャッチフレーズには、「市内外の多くの方がさまざまな障害に対する理解を深め、一人ひとりが寄り添う心を持ち、手を取り合って暮らせる共生社会に」という想いが込められています。

共生社会って？

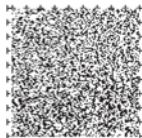
「共生社会」とは

すべての人々が、障害の有無、国籍、性別などによって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会のことを言います。

2015年に国連で定められた「SDGs:Sustainable Development Goals」(持続可能な開発目標)においても、「誰一人取り残さない」ことが原則として掲げられ、共生社会実現への取組が求められています。



日本では～障害者差別解消法～



障害の有無によって差別されることのない共生社会の実現を目的として制定され、2016年4月に施行されました。障害を理由として異なる取扱いをする「不当な差別的扱い」の禁止や、障害のある人にとって社会に存在する障壁(バリア)を取り除くための「必要かつ合理的な配慮」の提供義務が規定されています。

取組の趣旨・背景

幅広く利用可能なロゴと、取り組みを象徴する“アートデザイン”を用いたPRを行っています。この“アートデザイン”は、2019年に開催した「調布サマーフェスティバル2019」で、市内の福祉作業所メンバーとイベントに来場した子どもたちが、指や手に絵の具をつけて、一緒に制作したアート作品のデザインです。



調布市ホームページ
（「パラハートちょうふ」
ロゴ・アートデザインの取組）

手話言語条例・障害者の多様な意思疎通に関する条例

2024年9月に2つの条例を制定しました。私たちができるることを考えていきましょう。

手話言語条例

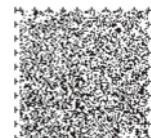
手話は独自の語彙、文法、文化を持つ1つの言語です。手話を多くの人に知ってもらい、手話を自分の言語として使う人の権利を守り、共生社会の充実を目指すことを定めた条例です。



詳細は調布市
ホームページへ

障害者の多様な意思疎通に関する条例

人と人との意思疎通をし、自分の気持ちや考えを伝え、理解しあうことは全ての人の権利です。障害のある人が、希望する方法でコミュニケーションをとれるように、配慮・支援などをして、共生社会の充実を目指すことを定めた条例です。





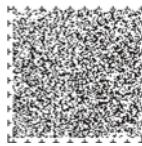
「パラハートちようふ」をひろげる

「パラハートちようふ」を広めていくため、市民や市内団体等と連携しながら、さまざまな分野で取組を進めました。



多彩な装飾による普及啓発

ロゴとアートデザインを活用し、市庁舎玄関、エレベーターの装飾など、さまざまな場面で装飾による普及啓発を行っています。



「パラハート月間」動画配信

調布市では、「障害者月間」(12月3日～9日)を含む12月を「パラハート月間」としています。地域で生活する障害のある方の、日常生活の一場面を紹介しています。



▼動画はこちら



オリジナル 指差し案内シート

意思疎通に配慮が必要な方の接客時に、イラストや文字を指差すことでコミュニケーションを取ることができるシートを調布市内の店舗に配布しています。



地域共生推進ふれあい商店等補助事業(バリアフリー補助事業)

市内の商店などを対象に、ハード・ソフト両面のバリアフリー化を進めるために行う改修工事や備品購入などの費用の一部を補助しています。



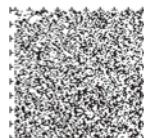
調布市障害者スポーツの振興における協議体

障害者スポーツ振興のため、スポーツ・福祉・医療分野の関係団体による協議体を設置しています。現状や課題、できること等を共有し、連携の可能性を見出し、課題解決に向けた意見交換や障害当事者の運動機会の創出・定着に向けた取組を行っています。



<参加団体>

(公社)調布市スポーツ協会、調布市スポーツ推進委員会、(NPO法人)調和SHC俱乐部、(社福)調布市社会福祉協議会、(社福)調布市社会福祉事業団、調布市福祉作業所等連絡会、(公社)東京都理学療法士協会、(公社)東京都障害者スポーツ協会、東京都生活文化スポーツ局/プラススポーツ課、調布市スポーツ振興課、障害福祉課



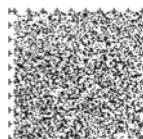
パラハートちようふ meets ART

文化芸術の振興による共生社会の充実に向けて、多様な主体との連携により、多彩なアートとの出会いを通じて“パラハートちようふ”を広める取組を実施しています。



パラアート展

パラアート展2025は、“70歳の調布への贈り物”をテーマに制作された作品の中から調布ゆかりのスポーツ団体や企業が表彰する「アワード部門」と、テーマを設げずに自由に制作された「自由制作部門」の二部構成で開催しました。また、西部児童館の子どもたちとパラアート展メンバーが一緒になって色付けした記念タペストリーも展示しました。



見る・聞く

誰もが文化芸術を楽しむことができる環境づくりのため、サポートや取組を行っています。

- 鑑賞サポート：手話、字幕付き公演、筆談用ボード、音声ガイド付き上映、触れる展示作品など
- 展示：たづくりエレベーターホールアート（パラアート展作品の活用）



絵ばなし寄席



触れる展示作品



エレベーターホールアート

参加する

障害がある・なしに関わらず参加できる創作ダンスや演劇、共に楽しむことができるパレードやディスコなどの企画があるイベントに取り組んでいます。



グリーングリーンのはら
写真提供:みんなのダンスフィールド



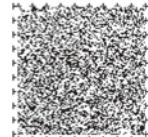
インクルーシブシアター
撮影:青二才晃



ちょうふ彩咲祭(さいさいさい)

パラハートちょうふmeetsART特設サイト

パラハートちょうふmeetsARTの情報をわかりやすく発信するため、誰でも参加できるイベント情報をまとめた特設サイトを開設しています。





「パラスポーツ」への取組

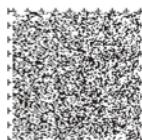
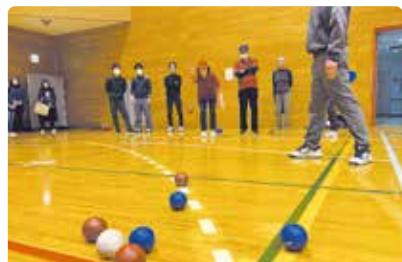


パラスポーツ体験会

日本車いすバスケットボール連盟などの各競技団体と連携して実施しました。パラスポーツの難しさや面白さを体験し、より身近に感じることができます。

東京都市町村ボッチャ大会

2019年度から多摩地域の市町村がボッチャ大会を開催しています。市では調和SHC倶楽部やスポーツ推進委員会と連携したボッチャ交流会を予選会として、障害の有無に関わらず多くの人がボッチャを楽しめます。





FC東京あおぞらサッカースクール・交流会

FC東京と連携し、主に知的・発達障害のある方を対象に定期的なサッカースクールを開催しているほか、他のチームとの交流会を開催しています。



車いすバスケットボール Chofu エキシビションマッチ in 京王アリーナTOKYO

日本車いすバスケットボール連盟と調布市、京王アリーナTOKYOが、トップチームによるエキシビションマッチや車いすバスケットボール体験を実施しています。



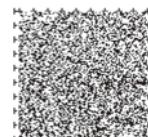
あすチャレ！スクール

日本財団パラスポーツサポートセンターによる、小・中・高・特別支援学校を対象とした体験型出前授業です。パラスポーツのデモンストレーション、体験、講話を通じて共生社会への気づきや学びの機会を提供しています。



ブラインドサッカー®体験授業 「体験型ダイバーシティ教育プログラム スポ育®」

日本ブラインドサッカー協会による「ス po育」は、ブラインドサッカー特有の視覚を遮断して行う体験型のプログラムで、小学生を対象に障害理解やコミュニケーションを学ぶ機会となっています。



東京2025デフリンピック

調布市では、東京2025デフリンピック開催にあたり、大会の機運醸成・障害理解の促進に向けた取組を行いました。

大会に向けた取り組み



東京2025デフリンピック特別授業「調布市デフプログラム」(デffPro)

市内小・中学校を対象とし、デフアスリートに親しみを持ち、聴覚障害への理解を深める特別授業を実施しました。



デフットサル・プログラム
(講師: デフットサル選手
・監督)



応援アスリート・プログラム
(講師: デフゴルフ
袖山哲郎選手と妻・由美氏)



手話言語・プログラム
(聴覚障害当事者・手話通訳者)



デフバドミントン・プログラム
(講師: デフバドミントン選手)

東京2025デフリンピック応援企画 「エールの花束プロジェクト」

ワークショップなどで描かれた応援の気持ち(エール)を込めた花の絵を、
京王アリーナTOKYOの
装飾や応援グッズに
使いました。



エールの花束プロジェクト



大会中の京王アリーナTOKYOでの装飾

その他の取り組み

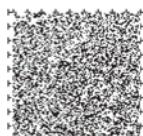
選手を応援！



デフバドミントン日本代表練習公開＆壮行会



デフゴルフ日本代表の袖山選手が
トークショーに登場



デフリンピックとは？

「デフ」は英語で「耳がきこえない」という意味。デフリンピックはきこえない・きこえにくいアスリートたちの国際総合スポーツ競技大会です。100周年を迎えるデフリンピックが日本で初めて開催されました。

大会概要

日程 | 2025年11月15日～26日(12日間)

競技 | 21競技(陸上、バドミントン、バスケットボールなど)

会場 | 都内16会場(サッカーは福島県、自転車は静岡県)

出場選手 | 70～80か国・地域 約3000人

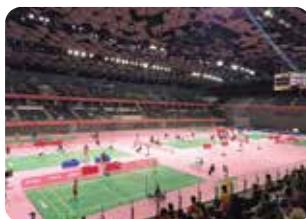
※調布市では京王アリーナTOKYOでバドミントンが開催



大会の様子



大会中の京王アリーナTOKYO



サインエールで選手を応援



調布市ブースでは、市内の作業所製品を販売

大会を盛り上げる動画も配信

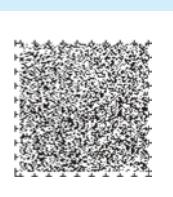
市公式Instagram・YouTubeで手話の普及啓発・選手への応援動画を配信しました。



Instagram



YouTube



調布市 生活文化スポーツ部 福祉健康部

TEL : 042-481-7135(障害福祉課)

FAX : 042-481-4288

MAIL : syougai@city.chofu.lg.jp

登録番号(刊行物番号)2025-145

2025年12月発行

